

○「九条の会」は04年6月、井上ひさしや大江健三郎、澤地久枝ら9人の呼びかけで「憲法9条を守る」という一点で生まれた会です。今や全国に7,507、福島県内でも100以上の会が、超党派で、独自の自由な平和のための活動をしています。「はらまち九条の会」にはどなたでも入会できます。年会費千円。事務局までご連絡下さい。



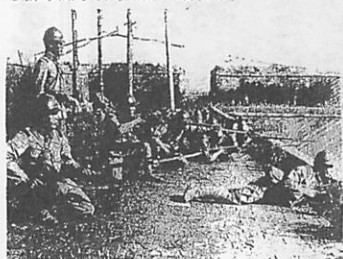
九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.148

2010(平成22)年 9月18日(土)発行

<1931(昭和6)年9月18日、柳条湖(りゅうじょうこ)の鉄道爆破で満州事変が起こされた>

●柳条湖事件(1931=昭和6)



●満州事変の発端になった事件で、満州の軍事占領を計画した関東軍の参謀板垣征四郎(いたがきせいしろう・戦後A級戦犯として絞首刑)、石原莞爾(いしはらかんじ)、奉天特務機関長土肥原賢二(どいはらけんじ・戦後A級戦犯として絞首刑)らの陰謀によるもの。●関東軍が、奉天(瀋陽)郊外柳条湖の南満州鉄道の線路を爆破。これを張学良軍のしわざと称して付近の兵営北大營を奇襲攻撃。時の第2次若槻礼次郎内閣はただちに不拡大方針を声明したが、関東軍はこれを無視して戦域を拡大。これが中国との昭和20年終戦までの「十五年戦争」に発展。●翌年1932年満州国が成立。さらに1933年に日本は国際連盟を脱退する。

原町ご出身で現在福島市在住の作家・郷土の現代史研究家の二上英朗氏が、独力で企画する写真展が開催されます。8月の【原町空襲から65年展】、9月の【海を渡った南相馬人展】、道の駅での【無線塔大回顧展】に次ぐ開催です。

日時：10月9日(土)～17日(日)

会場：原ノ町駅前南相馬市中央図書館ロビー

**1944～1953原町陸軍飛行場と無線塔下
【特攻隊と米軍基地の時代・写真展】**

企画展示：二上英朗氏(本会会員)

昭和19年10月のフィリピン戦において、敗色濃い日本の陸海軍は、必死必殺の戦法として特別攻撃という人命を無視した最後の戦いに挑んだが、その後の沖縄戦・本土空襲・原爆投下で完膚なき民力の消耗を招き、大日本帝国は滅亡した。

昭和20年の無条件降伏による敗戦。21年の天皇の人権宣言による神格否定。22年の新憲法発布。23年から28年までのふるさと南相馬の進駐軍占領時代をたどります。

昭和の青春時代。若者は、戦争一色に染められていた。男たちは戦場へ送られ、女たちは兵器としての子供を生む機械にされた。

いま、ほんとうの教育の力と、文化の力を見直しませんか。

国を守る力は軍事力だけではありません。教育・文化の力を見直し価値観の共有をめざし、アメリカ、ロシア、中国など大国および世界諸国との共存共栄の道を、歴史の原点から考えてみませんか。

(二上英朗)

◆主な展示写真◆ 原町飛行場 特別攻撃隊：神州隊 国華隊 振武24隊 皇魂隊

特攻死された原町出身中野磐雄・志賀敏美 原町で撮影された特攻隊員たちの生前最後の姿 アメリカ空軍原ノ町レーダー基地・兵士など二上氏手作りの写真展です。



あまりにカッコ良すぎる龍馬！ 史実との違いも多く、ナシヨナリスムを煽りすぎるといふ批判も！